（別紙８）

［認知症対応型共同生活介護用］

1.　評価結果概要表

作成日　平成20年10月24日

【評価実施概要】

事業所番号	071100365		
法人名	有限会社　ケアリンクス		
事業所名	グループホーム　ほくとの家		
所在地	千歳市北斗1丁目19-14 （電　話）0123-23-7311		
評価機関名	株式会社　社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年10月20日	評価確定日	平成20年10月27日

【情報提供票より】（　20年10月1日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・平成　17年　6月　1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	8 人	常勤　5人，　非常勤　4人，　常勤換算　5.58人

（２）建物概要

建物構造	木造平屋　造り
	1 階建ての　1 階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	45,000　円		その他の経費（月額）	光熱水費30000円 暖房費（10-3月）5000円
敷　金	有（45000円）　無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（　円） 無		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	300　円	昼食	300　円
	夕食	300　円	おやつ	100　円
	または1日当たり　1,000　円			

（４）利用者の概要（　10月　1日現在　）

利用者人数	9 名	男性　3 名	女性　6 名
要介護１	3	要介護２	0
要介護３	3	要介護４	2
要介護５	1	要支援２	0
年齢　平均　85.11 歳		最低　70 歳	最高　97 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	伊勢内科小児科クリニック・宮川歯科医院・佐藤整形外科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道近くで交通や買い物の便がよく、しかも自然に恵まれた閑静な住宅地に位置し、広々とした敷地に囲まれている。玄関横には広い木製のベランダがあって、多目的の屋外活動の場となっている。屋内のスペースも広く、採光も良い。経験豊かな管理者が熱意をこめてケアの向上に取り組んでおり、職員の士気も高い。医療との連携が緊密で、利用者、家族の安心と、さらには職員の教育にも大きな役割を果たしている。町内会活動に積極的に参加し、さらに高齢者介護や認知症への対応について地域への啓蒙、貢献にも積極的に取り組んでいる。利用者中心の考え方を貫いており、介護計画や職員の異動などすべて本人に開示し、利用者会議を開いて忌憚のない本音を引き出している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	ホーム独自の運営理念と基本理念を作り上げた。同業者との交流、ターミナルケアへの体制作り、住民参加の災害訓練についてはまだ途上であるが、実現に向けて取り組んでいる。居室への配慮については、家族や本人と相談しながら適宜職員が介入して、改善されてきている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価表を全職員が閲覧し、意見を出し合って、幹部職員がまとめあげ、これを再度職員が閲覧して適宜修正し、完成した。グループホームのあり方を再認識する良い機会として位置づけており、地域とのかかわりを具体的に推進するきっかけともなった。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	運営推進会議では、介護状況、事故、ヒヤリハット事例、行事予定・結果、を報告し、町内会からは行事予定、民生委員からは地域の高齢者の状況報告を得ている。また、地域包括支援センターからは介護予防についてのアドバイスを得ている。討議の結果は運営に反映されるほか、地域住民及び福祉関係者として、行政への要望、提言の発信源ともなっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	家族が来訪した際には、積極的に働きかけて意見や苦情を引き出すように努めている。家族が来訪して帰り際に残してゆく、一見さりげない指摘を、重要な意見ないし苦情と捉え、苦情処理として取り扱う。記録して職員間で討議し、結果は家族に報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	町内会に加入して盆踊り、敬老会、資源回収に参加し、ホームで開催する「ほくと祭り」には100人内外の地域住民を招いて、盛大な交流を図っている。ボランティア団体「ひとまちづくり」や社会福祉協議会ボランティアに職員が参加している。庭先で飼っているうさぎを見に、近所の子どもが毎日のように寄ってくることで交流の輪が広がっている。

２．　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
１．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員一丸となって、その人らしい生活を支え、あらゆる資源を活用し、利用者の主体性を尊重し、地域と社会とのつながりの架け橋となる、などを中身とした、事業所独自の基本理念を最近作り上げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、ホール、事務所、居室内に掲げ、パンフレットに印刷し、職員各自がプリントしたものを常時持ち歩いている。毎朝、夕の申し送りのときに読み上げている。		
２．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して盆踊り、敬老会、資源回収に参加し、ホームで開催する「ほくと祭り」には100人内外の地域住民を招いて、盛大な交流を図っている。ボランティア団体に職員が参加している。近所の子どもが、庭先で飼っているうさぎ見に寄ってくることで交流の輪が広がっている。		
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を全職員が閲覧し、意見を出し合って、幹部職員がまとめあげ、これを再度職員が閲覧して適宜修正し、完成した。グループホームのあり方を再認識する良い機会として位置づけており、地域とのかかわりを具体的に推進するきっかけともなった。	○	自己評価への一般職員参加については、意見を求めるに止まっているが、実際に評価の作成にまで踏み込んで参加するよう、いっそうの工夫と努力を期待したい。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、介護状況、事故、ヒヤリハット事例、行事予定・結果、を報告し、町内会からは行事予定、民生委員からは地域の高齢者の状況報告を得ている。討議の結果は運営に反映されるほか、行政への要望、提言の発信源ともなっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	あらゆる地域資源を活用する、との理念のもと、管理者は週に2回は市役所を訪問し、職員のスキルアップ施策その他、グループホームの運営改善に行政としても、なおいっそう力を入れるよう、強く要請し続けている。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	法人としての広報誌、施設独自の家族向けの便りを季刊発行して様子を伝えている。便りには個別の連絡も載せる。金銭管理の報告は毎月末、領収書と帳簿のコピーを提出している。職員の異動はその都度家族にも報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪した際には、積極的に働きかけて意見や苦情を引き出すように努めている。家族が来訪して帰り際に残してゆく、一見さりげない指摘を、重要な意見ないし苦情と捉え、苦情処理として取り扱う。記録して職員間で討議し、結果は家族に報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者ごとに特定の職員が担当する仕組みとしつつも、日ごろから職員の異動に備えて全職員が馴染みの関係を築いている。離職の後任は、利用者に最もふさわしい職員を厳選して当てている。新入職員については基礎研修の後、現場で入念な実地研修を継続して利用者へのダメージを防いでいる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育についての年間計画を作成し、連携医療機関との協力関係による内部研修を年に1回、まる1日をかけて実施している。外部研修には各職員、年に2～3回程度派遣している。認知症ケア専門士、介護福祉士などの資格取得に向けた研修受講も積極的にバックアップしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会主催の研修会で同業者と交流しているほか、母体法人主催の研修会には市内同業者を招いて交流している。法人内施設同士では日常的に交流している。管理者の個人的な関係を利用した個別の情報交換も行っている。	○	これまでのところ管理者レベルでの交流に止まっているが、同業他事業所と協議を進めて、職員レベルの相互訪問などの交流も実現できるよう、期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族、本人面談、医療機関などからの情報をもとに入念なアセスメントを行い、十分な態勢を整えてからの受け入れとしている。入居時に介護計画を作成し、1ヵ月後に見直しを行う。入居の後は、本人中心ケアの考えのもと、個別ケアをしっかり行うことで、早く雰囲気に馴染めるよう、配慮している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の支度、片付け、家事など多くの作業を協同で行い、行事の企画やホームのあり方などについても利用者と一緒に考えている。職員は、利用者の長い人生経験を崇敬し、物を大切にすることや、言葉遣い、態度など、多くを学んでいる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **１．一人ひとりの把握**					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎週、利用者による会議「ほくとの集い」を開催し、日ごろの思いや心配事、家族に訴えたいことなどを出し合っている。会議は、日常の個別接遇からは得られない、率直な気持を聞き出す、重要な場となっている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、日々接する中での気づきを記録して計画に取り入れたり、「ほくとの集い」等で利用者の思いを聞き、家族や関係者の意向を踏まえて専門員の指導で担当職員が作成している。介護計画書は、センター方式を取り入れているが、介護支援専門員の工夫により、オリジナルな様式を作りあげている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、基本的に３ヶ月毎の見直しを行っている。モニタリングは毎月行い、入退院や精神身体の状況変化が生じた時は見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。介護計画の方向性に変化が生じた場合にも、その都度見直しを行っている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制があり、主治医と２４時間連絡が可能になっている。利用者が入院による食欲不振になった時も、職員が食事介助に出向く等の柔軟な支援を行った事もある。家族の状況により、通院介助も柔軟に行っている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院による週１回の往診とともに、利用者や家族の希望を尊重し、かかりつけ医や希望病院受診にも対応している。職員はかかりつけ医とも常にコミュニケーションを取り、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応」の文書を作成し、入居時に契約を交わしている。利用者の状況の変化や家族の状態により、面会時などに話し合いを行い随時方針を共有している。	○	ターミナルケアについてのマニュアルを作成し、職員が研修に積極的に参加して、平成２１年度半ばまでにターミナルケアの体制作りを予定しているので、その実現を期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録等は、事務所の所定場所で保管している。利用者と触れ合う中で言って欲しくない事を理解し、会話などで触れないように配慮している。職員自身にアンケートを取り、プライバシーの確保の重要性を理解して利用者に対応するような工夫も行っている。	○	面会簿が、全員記入するノート形式になっているので、個々のプライバシー配慮の面からも、個別の記入方式などに変更される事を期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活リズムを尊重し、事業所の決められた日課で過ごす事がないように配慮している。職員は業務中心にならないように徹底しており、常に個別対応を心がけて支援している。外出や買い物など、利用者の希望を優先に柔軟な対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の味見や配膳、片づけなど利用者と共に行い、職員も一緒に楽しく食事をしている。献立は利用者の希望を取り入れ、一緒に買い物に出かけて決めている。職員が寿司屋の模擬店をしたり、蕎麦打ちなどをして、楽しみながら食事が出来るように工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週２～３回を目標に、利用者の希望でいつでも入浴出来るように支援している。入浴拒否のある利用者には強制しないが、ジャグジーバスを取り入れたりする事で、拒否する事が少なくなり、利用者は楽しんで入浴するようになっている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が思いを自由に話す「ほくとの集い」や個別対応の時などに、一人ひとりの希望を把握し、張り合いのある日々が過ごせるように配慮している。麻雀や写真撮影、音楽鑑賞など、一人ひとりの楽しみ事や気晴らしが出来るように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の個々の希望に沿って、買い物や散歩などに同行し、日常的に外出出来るように支援している。外出が少ない利用者には、日々のかかわりの中で外出したくなるように働きかけを行い、出来るだけ戸外に出られるように配慮している。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	午後６時以降は防犯上施錠しているが、日中は鍵をかけることなく、自由な暮らしを支援している。利用者が外出した時には、職員も一緒に外出して安全面に配慮している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時マニュアルを作成し、年１回消防署の指導のもと消火訓練や避難訓練を実施している。運営推進会議やほくと祭りを通して、地域住民に事業所の周知活動と災害時の協力を呼びかけている。	○	来年度は、夜間を想定した避難訓練の実施を予定しているので、その実現を期待したい。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	提携医療機関の管理栄養士から栄養指導、食材のアドバイスなどを受けている。水分、食事の摂取量を記録して個々の状態を把握している。食欲がない時は、好きな物や、おにぎりなどにして食事が摂取出来るように配慮している。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、温もりのある日差しが入る大きな窓があり、利用者は思い思いの場所でくつろいでいる。季節感を取り入れた手作りの日めくりカレンダーや、利用者の目線に合わせた鏡や時計が廊下などに配置されていて、一人ひとりの利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の使い慣れたベッドや箪笥などの家具が持ち込まれ、居心地良く過ごせるようになっている。前回の外部評価を踏まえ、家族や利用者と話し合いながら、担当職員も一緒に、それぞれの居室を自分らしく落ち着いて過ごせるように工夫している。		

※ ▒ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。